

Effect of vestibular rehabilitation program using a booklet in patients with chronic peripheral vestibular hypofunction: A randomized controlled trial

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2023-06-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田中, 亮造 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003004

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2689 号

Effect of vestibular rehabilitation program using a booklet in patients with chronic peripheral vestibular hypofunction: A randomized controlled trial

慢性末梢前庭機能低下患者に対する冊子を使用した前庭リハビリテーションプログラムの効果：ランダム化比較試験

田中 亮造（たなか りょうぞう）

博士（医学）

論文審査結果の要旨

末梢前庭機能低下はめまい、歩行障害、姿勢不安定性、動揺視を引き起こす。慢性末梢前庭機能低下患者に対する治療法として前庭リハビリテーション（以下、前庭リハビリ）が推奨されている。先行研究では冊子を使用した在宅前庭リハビリがめまいを改善することが報告されているが、歩行機能への効果は検証されていない。また、在宅前庭リハビリのアドヒアランスを向上させるためには患者の症状に応じたエクササイズを提供する必要がある。本論文は慢性末梢前庭機能低下患者に対して、患者の症状に応じてカスタマイズした在宅前庭リハビリプログラムを提供し、歩行機能とめまいに対する効果を検証している。慢性末梢前庭機能低下患者 42 名を前庭リハビリ群（20 名）とコントロール群（22 名）に割り付け、非盲検ランダム化比較試験にて在宅前庭リハビリの効果を検証した。反復測定二元配置分散分析の結果、Functional Gait Assessment ($F=18.339$, $p<0.05$), Dynamic Gait Index ($F=15.758$, $p<0.05$), Dizziness Handicap Inventory (DHI) total ($F=4.112$, $p<0.05$), DHI emotional ($F=5.351$, $p<0.05$)で群（前庭リハビリ群、コントロール群）と時間（介入前、介入後）に有意な交互作用が認められ、前庭リハビリ群の歩行機能とめまいはコントロール群より改善していた。また、前庭リハビリ群におけるホームエクササイズのアドヒアランスは $94.9\pm 6.7\%$ と高値であり、症状に応じたホームエクササイズの難易度調整が有効であった。慢性末梢前庭機能低下患者の歩行機能およびめまいに対して、在宅前庭リハビリプログラムが有効であることを示しており、本論文は臨床的に意義がある。よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。